



医療法人北海道家庭医療学センター

THE HOKKAIDO CENTRE FOR FAMILY MEDICINE



HCFM法人サイト https://www.hcfm.ip



HCFM採用サイト https://saiyo.hcfm.jp

医療法人北海道家庭医療学センター事務局

〒007-0841 北海道札幌市東区北41条東15丁目1-18 TEL 011-374-1780 FAX 011-722-9387 info@hcfm.jp

地域を愛する人びとと、 私たちにできることを。

北海道家庭医療学センターは

1996年に北海道・室蘭の地で産声を上げ、2008年に医療法人化しました。

3つのミッションを掲げ、

さまざまな家庭医療診療所のモデルを提供してきたと同時に、

一貫して北海道、そして日本における理想的な家庭医療を実践し、

その担い手となる家庭医を含む医療職の養成に力を尽くしてまいりました。

2018年には新専門医制度がスタートし、

19番目の基本領域として総合診療専門医が位置づけられる時代となりました。

私たちは時代の変化を歓迎しつつも、

変わりゆく日本の医療における家庭医療・総合診療のパイオニアをめざし、

職員一人ひとりが輝き続けられる組織として歩み続けて参ります。

どうぞ北海道家庭医療学センターにご期待ください。





家庭医が求められる時代

人口減少や高齢化を背景にさまざまな医療問題が浮き彫りとなりつつある今、改めて「身近な医療 | であ る家庭医療が脚光を浴びています。

たとえば複数の健康問題を抱える高齢者が、これまで住んでいた所で、できるだけ長く安心して暮らしたい と願っても、それを支える在宅医療の担い手は圧倒的に不足しています。地域において訪問診療に先駆的に 取り組まれている開業医の先生もいらっしゃいますが、一人で運営されている場合には24時間対応は現実的 ではありません。がんや難病への対応にも限界があります。そうした中で、グループ診療を軸とした医療体制 の整備は急務であり、さらに多様な健康問題に対して綿密なトレーニングを受けている医師、家庭医(総合診 療医)の存在は不可欠でしょう。

郡部においては医師不足が深刻です。北海道に限らず日本全国で人口減少が加速していますが、これまでの ように市町村が単独で複数の専門医を抱えることが難しくなってきています。これから先の地域医療を考える 上で、欠かせないキーワードが「広域連携」です。市町村が単独ではなく、近隣の市町村と一緒に複数の医師を 確保し、一つの医療機関を共同で運営するという新しい地域医療の形が、地方行政・医療業界の双方から求め られています。そのときに必要となるのが、多様な健康問題に同時に対応できる医師の存在です。

たとえばある地域に4人の医師がいたとして、4人の専門が異なる場合、一人が欠けてしまえば「子どもを診 る」「傷の処置をする」「訪問診療」といったさまざまな医療のうちのどれかが提供できなくなります。ですが家 庭医であれば、幅広い健康問題に対応できるので、一人が欠けても3人でフォローでき、24時間・365日の医 療提供が可能です。都市部においては在宅医療と看取り、郡部においては少ない医師で広域をカバーする体 制づくりが喫緊の課題となっている今、家庭医に対する期待はますます高まっているといえます。

都市でも郡部でも病院の中でも

北海道家庭医療学センター(以下、HCFM)は「良質な家庭医療の実践」「良質な家庭 医の養成」「北海道および日本の家庭医療の発展に対する貢献」の3つのミッションを 掲げ、創設以来20年以上にわたってさまざまな家庭医療診療所のモデルを構築してき ました。札幌や室蘭、旭川といった「都市型」、更別・寿都・上川などの「郡部型」、さらに は千歳の向陽台ファミリークリニックのような「郊外型」クリニックの開設・運営を通し て、地域それぞれのニーズに応じた家庭医療を実践しています。

近年は診療所運営だけではなく、病院との連携にも取り組んでいます。2016年4月 からは北海道社会事業協会帯広病院の総合診療科の運営をHCFMが担い、家庭医が 他の診療科の先生たちと密に連携しながら診療を行っています。すでに数年間が経過 していますが、「あそこへ行けば何でも診てもらえる」という評判が広まり、外来・入院 ともに患者数が増えて、経営的な側面でも貢献できていると聞きます。

医師不足が叫ばれる今、ワンストップで横断的に患者を受け入れられる家庭医/総 合診療医の存在は病院経営においても無視できないものとなるでしょう。

原点から問い直し、さらなる高みへ

繰り返しになりますが、HCFMの強みは多様な家庭医療診療所のモデルをすでに動 かしていることにあります。その中で手応えをつかむこともあれば、新たな課題にぶつ かることもあります。わたしたちが直面しているのは診療所の所長を担う医師の養成で す。診療所の所長は診療スキル、経営能力に加え、かなり高いレベルでのマネージメント 能力が求められます。その養成手段として、これまでもわたしたちはフェローシップとい うプログラムを実践してきましたが、さまざまな可能性を秘めた現場での対応となると、 正直なところフェローシップだけで完成しうるものではないと痛感しています。ですか ら、わたしたちは今一度、評価・教育のあり方を見つめ直し、フェローシップ修了以降も 継続して医師の生涯学習をフォローする体制づくりに取り組みたいと考えています。

このほか、すそ野拡大のための普及活動や臨床研究への貢献、プライマリ・ケアに特 化した看護師の養成など、取り組むべきことは数多くありますが、わたしたちは今一度、 家庭医療の原点に立ち返って、日本型家庭医療の確立のために努めてまいります。



4つの新ビジョン

Vision 1 地域ニーズに応える質の高い家庭医療の実践

- ・ 人口動態や社会情勢の変化に応じて変貌していく地域の在り方を踏まえ、地域のインフラとして求められる診療機能を常に探索し提供する姿勢
- ・ 高度化する医療と住民をつなぐゲートオープナーとしての役割を果たすべく、多くの専門家や医療・保健・福祉機関と連携しながら、 常に最善の家庭医療診療を提供する姿勢
- ・ 多様な地域(大都市、地方都市、郡部、離島・へき地、高齢化する住宅地等)に適応する家庭医療モデルの構築

Vision 2 多様性と学びを重視した活力ある組織作り

- ・ 様々な職種で構成される職員が、それぞれの個性や能力、更に暮らし方に応じて適材適所で活躍できる環境作り
- ・職場や地域からのニーズに柔軟に対応しながら、様々なツールや機会を活かして職員が生涯学び続ける環境作り
- ・職員、特に看護師やリハセラビストなどのコメディカルスタッフの成長と組織の成長が互いに絡みながら向上し、緊張感と安心感が同居する"学習する組織"作り

Vision.3 キャリア支援を根底においた医師養成

- ・医学生・研修医などの若手医師、更には北海道地域枠医師や自治医大卒業医師など家庭医療に関心ある人材への積極的なアプローチ
- ・ 都市部診療所・郡部診療所の特性を活かした家庭医療研修、更には北海道社会事業協会帯広病院総合診療科での病院総合診療研修を軸に4年間の総合診療専門研修を提供。 更には、サブスペとしての新・家庭医療専門研修も提供しつつ、指導医を目指すフェローシップ研修へと連続する学びの場の構築
- ・医師個人の家庭環境や人生設計を視野に入れたキャリア形成への十分なサポート体制

Vision.4 現場からのアカデミアのモデル発信

- ・日常診療に端を発する疑問や知見に基づく臨床研究の組織的な実践を継続し、常にプライマリ・ケアの現場から学術的貢献を果たし続けるモデルを構築
- ・臨床・教育・経営・研究など多様な活動から生まれる知識や技能を、執筆・講演・学会活動などで社会に発信し続ける姿勢
- ・日本プライマリ・ケア連合学会での家庭医療普及や人材育成支援、また、北海道全域及び診療所の所在する地域での在宅医療や 地域包括ケアシステムの普及を初めとする地域医療への貢献

プライマリ・ケア

家庭医療 4つの特徴

About Family Medicine

1.ずっと私を診てくれる、頼りになる医療



「ある地域で長期的・継続的に行われる

*その人丸ごと、を大切にした

人間関係を重視した医療サービス

家庭医療を実践する医師=家庭医は、患者さんだけではなく、 家族や地域・社会にも配慮し、一人ひとりに最適な医療を幅広く 提供します。その患者さんの人生や家族の状況、仕事や学校の 様子も踏まえて最適な医療を一緒に考える医療です。馴染みの 関係だからこそ、相談しやすく、説明や対応にも納得ができると いう医療サービスを目指しています。

2.身近な医療、最初の場所

「日常や人生で医療サービスが必要となったタイミングで最初に出会う医療、

そのための身近さ気軽さを持つ場所」

健康だったのに急な怪我をした、元気だったのに健診で異常が見つかった、子育てや介護で困って相談したい、生きていると必ず遭遇する身体や心の問題、暮らしていると必ず出くわす医療介護の問題。それをまず最初に相談したり、受診する場所が「家庭医療」を扱っている医療機関です。日本では最初から救急や大病院にかかることは可能ですが、物理的にも心理的にも身近であり、職場や学校の健診、予防接種などで顔を合わせているからこそ、親近感を持って受診することができます。医療が必要になったタイミングやその後も続く相談やケアを考え、かかりやすいという点を家庭医療は大切にしています。

プライマリ・ケア

家庭医療 4つの特徴

About Family Medicine

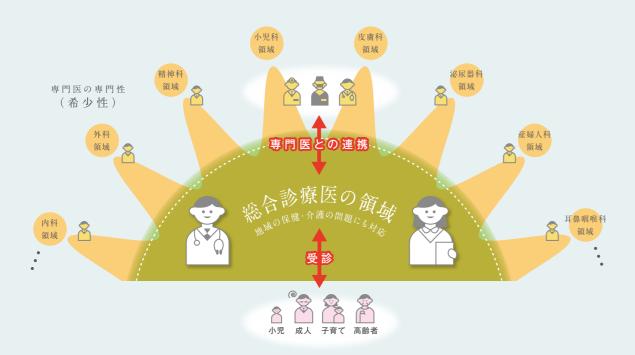
3.様々な健康問題への幅広い対応力

「ほとんどの健康問題をその医療機関でワンストップに診療や ケアができる幅広さと、適切に紹介する対応力も持っていること |

日常や暮らしの中の医療を支えるために、診療やケアの幅の広さが大切になります。生活習慣病や風邪といった外来診療だけではなく、認知症の相談や、うつ病へのケア、時には眼科や整形外科のよくある病気や怪我も私たちで対応できることがほとんどです。通院が難しい方への訪問診療、大きな病院に行かなくても済む軽傷の救急診療などに対応し、また地方では入院診療も行います。そして専門治療や重症治療が必要な時に適切なタイミングで紹介することも家庭医療の重要な仕事です。

Point.1 家庭医療では内科領域や、小児領域を中心に、整形外科領域や、皮膚科領域など、地域の暮らしや日常によくある病気であれば多くの科にわたる内容を扱っています。

Point.2 その幅広さは疾患のみならず、性別や年齢も問いません。家族や多世代が抱える複数の問題も同時に扱います。 3世代同時に受診することができるのが家庭医療の強みとも言われています。









4.多職種チームで地域を診る

「医師のみならず、多くの職種や関係するメンバーが

チームとなってケアを行う協働されたサービス

地域の日常や暮らしを支えるために医療機関の外に出て、地域の関係者の方や団体と協働して健康づくりや 健康教育を行うことも大切な実践に含まれています。患者さん全体を診る視点を「地域全体を診る視点」に 広げ、地域の多職種とチームを作って医療はもちろん介護や行政とも協働し、暮らしやすい地域や安心して 生活できるまちづくり・健康づくりにも関わっている医療です。



参考文献

Barbra Starfield.

Primary Care: balancing health needs, services and technology. Oxford University Press, 1998



診療所で遭遇する一般的問題に親しみ、継続した診 療、良好な医師と患者の関係を経験する中で、医師 としての基礎的な診断能力に欠かせない病歴や身 体診察による情報収集能力、医療面接技法、一般的 な症候や健康問題への対応能力など家庭医に必要 な素養を養成します。家庭医としてのアイデンティ ティ形成、家庭医療専門研修の基礎を2年目の研修 で育みます。

採用サイト 臨床研修コース



[2年間] 臨床研修コース ローテート例

1年目	2年目				
総合診療科[2ヶ月]、消化器内科[2ヶ月]、 循環器内科[2ヶ月]、教急[2ヶ月]、 選択必修[2ヶ月]、自由選択[2ヶ月]	精神科[1ヶ月]、地域医療[1ヶ月]、自由選択[1ヶ月]				
指導医による振り返り [月1回]					
ハーフ・デイ・バック [隔週半日/希望者]					
家庭医療レクチャー [毎週]					
ごちゃまぜ勉強会 [年1回/1日間]					
FaMReF [年1回1月/2日間]					

※総合診療科病棟研修と診療所研修の指導はHCFMプログラムを修了した医師が行います ※HDB(ハーフ・デイ・バック)半日間診療所へ出張し基礎研修を行うプログラムです

家庭医療学専門医コース (新・家庭医療専門医制度 準拠) 総合診療専門医コース

日本専門医機構総合診療専門医制度・日本プライ マリ・ケア連合学会に認定された4年制プログラム です。全国各地に家庭医を輩出し続けてきた歴史あ る家庭医育成プログラムを引き継いでいます。指導 医層の厚みや多様なサイト展開を活かし、多くの教 育コンテンツと一人ひとりの専攻医が安心して学べ る研修環境を提供します。研修修了時の目標とし て、環境に合わせて自分自身で成長し続けられる 「自立した省察的実践家としての家庭医」を掲げ、 日々の振り返りから学びを深めることを大切にして います。

採用サイト 専門研修コース

[4年間]専門研修コース ローテート例

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目						領域別研	修(内	科)				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年目	領域	找別研修	(救急)	領	域別研	修(小児)	総合	診療専門	引研修Ⅱ(総合診療	泰科) + l	HDB3
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年目	総合診療専門研修 I (都市部診療所:本輪西、栄町、北星、向陽台)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年目			総	合診療	専門研	修I(郡音	『診療列	f:更別、	寿都、上川	I)		

HDB(ハーフ・デイ・バック) [希望者に実施] 外部選択研修支援 [希望者に実施] 半日間診療所へ出張し基礎研修を行うプログラム 期間 隔週半日 場所 更別村国民健康保険診療所 内容 ・外来研修や乳幼児健診などを中心に実施 ・ビデオレビューによるフィードバック

期間 診療所研修中の年間平日5日間 内容 個別のニーズに合わせて研修内容は相談可能です

※領域別研修、総合診療Ⅱは帯広協会病院での病神研修

※総合診療科病棟研修と診療所研修の指導はHCFMプログラムを修了した医師が行います

家庭医療を学びたい、 そのニーズに応えた多様な研修プログラム

フェローシップコース



北海道家庭医療学センターのフェローシップ コースは、家庭医療専門研修の修了者を対象と して、家庭医療学・経営・医学教育・臨床研究の 基盤を固めながら、診療所の運営責任者・研修 指導医(プログラム責任者):臨床研究者といっ た様々な専門性をニーズに合わせて選択。その 素養を身につけてもらい、今後の日本の家庭医 療発展の中核となる人材へ成長してもらうこと を目指しているプログラムです。

採用サイト フェローシップコース



[ニーズに合わせたモジュール選択について]

受講者は『家庭医療学コア』と基礎を必修とした上で、個別のニーズに応じて『経営』『医学教育』 『臨床研究』の応用についてを1つ以上選択、もちろん、4領域すべてを受講することも可能です。 受講モジュールと期間は、開始時や受講中に選択することが可能です。



--------- 必須モジュール ---------- 任意モジュール [1つ以上選択]

経営と教育を集中して深く学ぶことはできますか?

応用は3領域のうち、関心のある領域に集中して受講することができます。 経営と教育に興味があるのであれば、このようなプランはいかがでしょうか?

2年間	家庭医療学コア	経営	医学教育	臨床研究	
1年目	前半	前半 【基 礎 】	前半 (基礎)	前半	
1 平日	後半	後半	後半	後半 基礎	
2年目	前半 基礎	前半応用	前半 応用	前半	
2 平日	後半	後半	後半	後半	

------- 必須モジュール ------- 任意モジュール [1つ以上選択]

フォローアップコース/再研修コース



家庭医療(総合診療)専門研修修了 成支援の機会を提供します。



家庭医療・総合診療再研修コースは たい、研究をしながら学びたいなど 様々なニーズにこたえます。







発表·研究·講演 Achievemen

活動の一部をご紹介します。

講演や講義はニーズに応じた対応もしています。

表彰

草場鉄周/安藤高志/松田諭/佐藤弘太郎/松井善典(北海道グループ)

厚生労働科学研究 臨床研究基盤整備推進研究事業「実現・持続可能性のある臨床研究フェローシップ構築研究・遠隔学習Bコース研究プロジェクト | 優秀賞 2011年

佐藤弘太郎

第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(仙台)日野原賞「介護に関する家族内関係性が介護負担感に与える影響」2013年

松井善典/宮地純一郎

第19回在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 全国の集いin新潟2013(新潟)実践交流会「地域包括ケア」部門優秀賞「診療所継承の初年度に地域包括ケアはどれくらい広がり深まるのか〜地域で多面的に広がった365日と今後の課題〜」2013年

原著

Tesshu Kusaba, Kotaro Sato, Shingo Fukuma, Yukari Yamada, Yoshinori Matsui, Satoshi Matsuda, Takashi Ando, Ken Sakushima, and Shunichi Fukuhara.

*Influence of family dynamics on burden among family caregivers in aging Japan. Family Practice 2016, Vol.33, No.5, 466,470

Kosuke Yamada, Takafumi Nakagawa, Hidenori Hatto, Junichiro Miyachi, Masato Narushima, Ken Sakushima, Shingo Fukuma, Yukari Yamada, Shunichi Fukuhara.

* Adequacy of initial evaluation of fever in long term care facilities... Geriatrics & Gerontology International.2016

Tetsutaro Cho, Toru Nakajima, Youichi Ueno, Kotaro Sato.

* Prospective study of the relationship between patient falls and caregiver burden in home health care: A pilot study. * Journal of General and Family Medicine 2018:19:72-76. doi.org/10.1002/jgf2.166.

草場鉄周、佐藤弘太郎、加藤光樹、神廣憲記、田極

第3部総合診療医に対する住民の意識調査. 厚生 労働科学研究費補助金 行政政策研究分野 厚生 労働科学特別研究. 「総合診療が地域医療における専門医や他職種連携等に与える効果について の研究 樹告書 研究代表者 前野哲博 2017年

中川貴史

「家庭医/総合診療医の活動が与える地域住民の受療行動変化一寿都町立寿都診療所における地域ケアの実践報告とその効用分析一」第6部総合診療医の活動に関するモデルとなる事例集厚生労働科学研究費補助金報告書、2018年、373-383

学会発表

中田雄介

ボスター発表「在宅療養支援診療所における訪問診療関連業務の可視化」日本医療マネジメント学会(長崎) 2012年

佐藤弘太郎

「介護に関する家族内関係性が介護負担感に与える影響」第4回日本プライマリ・ケア連合 学会学術大会(仙台) 2013年

山田康介

「家庭医療診療所群におけるQBTを用いた診療の質評価の取り組み」第6回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会(筑波) 2015年

長哲太郎/上野暢一/中島徹/佐藤弘太郎

「在宅療養における介護者の介護負担感と患者の店頭·転落との関連」第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(東京) 2016

山腰直樹/神田萌/白岩佐也佳/佐藤嘉朗/中川貴史

「肺癌終末期患者への訪問リハビリでの関わり」日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部 第6回北海道地方会(札幌) 2018年

荒関美和/佐瀬雄治/中川貴史

「家庭医療診療所におけるICPC-2主訴情報・地理情報を用いた疾患領域別の集患分析」第 11回日本プライマリ・ケア連合学術大会(広島) 2020年

著書・翻訳



*家庭医療のエッセンス 「ジェネラリスト・マスターズ」シリーズ 7。

草場 鉄周(編集主幹)/山田康介/中川貴史/八藤英典/安藤高志/松田諭/佐藤弘太郎/松井善典

*総合診療の視点で診る不定愁訴~患者中心の医療の方法。

加藤光樹(編著)/安藤高志/榎原剛/貴島啓介/草場鉄周/佐藤弘太郎/長哲太郎/福井慶太郎/松島和樹/村井紀太郎 et al.(著)



*家庭医療の質 診療所で使うツールブック、

Cheryl Levitt(著)/日本プライマリ・ケア連合学会・翻訳チーム(監修)/松村 真司(監修)/福井 慶太郎(監修)/山田康介(監修)/安藤高志/榎原剛/加藤光樹/草場鉄周/佐藤弘太郎/中川貴史/中村琢弥/成島仁人/八藤英典/平野嘉信/松井善典/松田諭/宮地純一郎/村井 紀太郎

講演講義

【地域住民向け】

中川貴史

講演 小樽市立菁園中学校 キャリア教育講演(小樽) 2017年

富田理哉

講演「市民公開講座」在宅緩和ネットワーク主催(室蘭) 2018年

伊藤史緇

講演「ホットナール講演会」中島町内会(室蘭) 2018年

廣田晴美

講演「風邪は万病のもとって本当?」港北中央町会にこにこサロン(室蘭) 2018年

【多職種向け

山田康介

講義「さらべつほーぶ〜地域の子どもたちに対するライフルスキル教育の取り組み〜」シンボジウム8 「みんなでつくろう地域ケアレシビ集・第3弾 〜レシビを活用しよう」第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(高松) 2017年

山田康人

講演「地域医療の実際と看護師の役割~コンバクトで比較的シンプルな地域を例に~」日本財団ホスピスナース研修会(帯広市) 2017年

中島徹

講演『在宅療養』を考える」千歳ケアマネージャーの会(千歳) 2017年

【医師向け】

草場鉄周

講義「総合診療専門医プログラム」シンボジウム「一体どうなっているの?総合診療専門医制度」日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(高松) 2017年

佐藤弘太郎

講義「臨床研究デザイン道場」第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(高松) 2017年

宮地純一郎/飯田淳子/錦織宏/島薗洋介/松井善典/堀口佐知子/伊藤泰信/錦織麻紀子

講義「医療人類学の知見をレンズに家庭医療の実践を深める一大学の総合診療から僻地の地域医療まで一」第8回日本ブライマリ・ケア連合学会学術大会 プレコングレスワークショップ24(香川) 2017年

宮地純一郎

講義「合否判定基準と評価者トレーニングとルーブリック 現場で働く指導医のための医学教育学プログラム基礎編」Web討論 2017年

さい 正相

講義「北の国から~郡部と都市部から見た景色~」日本プライマリ・ケア連合学会 第13回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー(東京) 2018年

加藤光樹

講演「家庭医療をとりまく環境」九州合同オリエンテーション(福岡) 2017年

堀哲也

講演「総合診療科の新設から1年間の軌跡」第5回北海道ブロック支部地方会(札幌) 2017年

後藤高明

講演「専攻医企画 指導医との上手な付き合い方~隣の芝は青いのか?ブログラムの壁を越えた専攻医ぶっちゃけディスカッション~」第5回北 海道ブロック支部地方会(札幌) 2017年

64

杉原伸明

講演「保存的加療により軽快した急性門脈血栓症の2例」日本内科学会 第282回北海道地方会(札幌) 2018年

【大学講義・学生向け】

草場鉄周

講演「家庭医療・総合診療」京都大学医学部(4年生)2017年

松井善典

講義「家庭医の家庭」家庭医療学夏期セミナー(かせみ)プレイベント@大阪医大(大阪) 2017年

[過去実績の一部です]

Medical Corporation Profile



私たちは、日本の家庭医療の発展に寄与していきます

1996	初代所長の葛西龍樹と医療法人社団日銅記念病院理事長(当時)の西村昭男の手で北海道室蘭市に北海道家庭医療学センターを開設
1997	1997年初期研修医に対する家庭医療教育を開始
1999	2年間の家庭医療専門研修プログラムを開始
2001	北海道十勝・更別村の更別国保診療所に研修医を派遣
2002	研修修了者がスタッフとして初めで赴任
2005	北海道後志・寿都町立寿都診療所に研修医を派遣
2006	初代所長の葛西龍樹が福島県立医大地域・家庭医療部の教授就任、修了生でもある草場鉄周が二代目所長に就任
2007	フェローシッププログラムの開始
2008	医療法人母恋の傘下から離れて独立し、「医療法人 北海道家庭医療学センター」として新たな一歩を踏み出す
2009	北海道上川町の国民健康保険上川医療センターと提携、医師派遣を開始
2010	旭川市の恵心会 北星ファミリークリニックと提携、医師派遣を開始/札幌市東区に栄町ファミリークリニックを開設
2011	滋賀県長浜市のあいち診療会、あざいリハビリテーションクリニックと提携、医師派遣を開始/第2回日本ブライマリ・ケア連合学会学術大会 in札幌 主幹/特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構(iHope)との提携開始/fMAPプロラム開始
2012	京大・医学教育推進センターとの協力体制構築
2013	第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 日野原賞 受賞
2014	北海道登別市の若草内科クリニックを継承し、若草ファミリークリニック開設/あざいリハビリテーションクリニックを継承し、公設民営の 診療所として浅井東診療所を開設
2015	福岡県小郡市に連携施設として医療法人社団豊泉会まどかファミリークリニックを開設/姉妹プログラムである関西家庭医療学センター において後期研修プログラムを開始/帯広市の社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院と後期研修(病棟研修)において提携、総合診 療科へ医師出向を開始
2016	北海道社会事業協会帯広病院にて後期研修(病棟研修)が開始/センター設立20周年を迎える
2017	北海道千歳市に向陽台ファミリークリニックを開設
2018	公設民営として寿都町立寿都診療所の運営を受託
2019	滋賀県長浜市に公設民営の診療所として浅井診療所を開設
2020	- 「一 「 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「















W 要 Outline

法人名

医療法人 北海道家庭医療学センター

関連法人

医療法人 若草ファミリークリニック 株式会社 HCFMパートナーズ

設立

2008年(平成20年)3月24日

お問い合わせ

北海道家庭医療学センター事務局 〒007-0841 北海道札幌市東区北41条東15丁目1-18 TEL 011-374-1780 FAX 011-722-9387 E-mail info@hcfm.jp



北海道から九州まで、地域を診つづけています

KANAI P



[2020年4月 現在]



道内

室蘭 | 本輪西ファミリークリニック

札幌|栄町ファミリークリニック

旭川 | 北星ファミリークリニック(提携)

登別 | 若草ファミリークリニック 千歳 | 向陽台ファミリークリニック

千歳 | 向陽台訪問看護ステーション

寿都 | 寿都町立寿都診療所(公設民営)

上川 | 国民健康保険上川医療センター(提携)

更別 | 更別村国民健康保険診療所(提携)

带広 | 北海道社会事業協会帯広病院 総合診療科(提携)



- 滋賀 | 浅井東診療所・デイケアくさの川(公設民営)
- 滋賀 | 浅井診療所(公設民営)
- 京都 | 医療法人社団淀さんせん会 金井病院(協力)
- 福岡 | まどかファミリークリニック(協力)